

2026年度天使大学大学院 入学者選抜
【看護栄養学研究科 看護学専攻 博士前期課程】
一般選抜Ⅱ期 専門科目（母性看護学）出題の意図および解答例

問題1

【出題の意図】

母性看護学の対象を支援する行う上で基盤となる理論の一つであり、母性看護学における対象を支援するための前提となる基礎知識を問う。

【解答例】

母子相互作用は、母親と児の心身の発達に影響する。身体的側面では、授乳や抱っこ、肌と肌の触れ合いを通して母親のホルモン分泌が促され、子宮復古や母乳分泌の安定に繋がる。新生児においては、体温調節や循環の安定が図られる。精神的側面では、母親が新生児の泣きや表情に応答し、安心感を与えることで愛着形成がすすむ。また、児との関りを通じて育児への自信や母性意識が高まり、情緒の安定が得られる。このように母子相互作用は、母親の産後の回復を支えるとともに、新生児の成長や情緒的発達の形成に重要である。

問題2

【出題の意図】

子ども家庭庁は、妊産婦が安心して出産・育児できるよう、「切れ目のない支援」を推進しており、基礎知識をもとに臨床実践におけるケアの意義について自身の考えを述べる力を問う。

【解答例】

妊娠期から産褥期まで継続したケアは母子の心身の健康を守る上で必要不可欠である。妊娠期は身体的変化や出産への不安が生じやすく、継続的な支援により安心感とセルフケア能力が高まる。分娩期には妊娠期から関係性を築いてきた支援者の関りが産婦の主体性や満足度の向上に繋がる。産褥期では育児不安や産後うつ等の早期発見・予防が可能となり、母親の精神的安定と育児適応を促進する。このような妊娠期から産褥期まで切れ目のない支援は母子の心身の安定を促し、安心して育児に取り組む環境を整える効果がある。

参考：子ども家庭庁. 産前・産後サポート事業ガイドライン 産後ケア事業ガイドライン（令和7年3月）

2026 年度天使大学大学院 入学者選抜
【看護栄養学研究科 看護学専攻 博士前期課程】
一般選抜Ⅱ期 専門科目（母性看護学）出題の意図および解答例

問題 3

【出題の意図】

産後ケア事業は、産後も安心して子育てができる支援体制の確保を行う重要な事業である。北海道でも多くの自治体を実施しており、地域性を踏まえた産後ケアの意義と課題、課題に対する自身の対応について、自らの考えを述べる力を問う。

【解答例】

北海道における産後ケア事業の意義は、母親の心身の回復を支え、安心して育児を開始できる環境を整える点にある。特に 産後うつの予防や育児不安の軽減、母子関係の安定化において産後ケア事業の役割は大きい。

北海道における産後ケアの課題としては、広域な地理条件による移動負担、医療・助産師の偏在、受け入れ施設数の不足、産後ケアの支援内容について自治体での実施にばらつきがある点が挙げられる。これらの課題に対する自身の対応として、妊娠期から地域資源の情報提供と相談を行い、継続した関りを行っていきたい。次に、移動が難しい地域ではオンライン相談や電話支援に繋げる役割を担いたい。また、自治体・医療機関・産後ケア施設と連携を強化し、切れ目のない支援が受けられるよう貢献したい。